

シリーズ2 庭木に利用する樹種の特徴と管理

20 ハクモクレン、モクレン、サラサレンゲ

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

住宅街を散歩していると、いい匂いのする白や紫の比較的大きな花を沢山咲かせている花木をよく見かけます。これらは春を告げる花木の代表選手で、白い花を咲かせるのがハクモクレン（図1）、紫の花を咲かせるのがモクレン（図2）、白と紫の中間色の花を咲かせるのがサラサレンゲ（図3）です。

1 特徴

花の色や花木の大きさは異なりますが、モクレン科モクレン属に含まれる樹木であり、花が上向きに咲くということは共通しています。それぞれの特徴は以下のとおりです。

(1) ハクモクレン

3月下旬頃から4月上旬頃に白い花を咲かせます。花弁は6枚、萼片は3枚ですが、花弁と萼片はほぼ同じ形状ですので、花弁が9枚あるように見えます。成長すると、樹高は10~15mになるので、公園や街路樹向きです。しかし、剪定によって樹木の大きさを低くめに管理すれば庭木として利用することができます。

同じ頃にハクモクレンによく似た花を咲かせる花木にコブシがありますが、花は、下向き、上向きなど、自由に咲くという違いがあります。

(2) モクレン

シモクレンとも呼ばれ、4月中旬から4月下旬にかけて紫の花を咲かせます。樹高は2~5mと低木で、庭木に適した花木です。ハクモクレンと違い、萼片は非常に小さいので、花弁は基本の6枚です。

(3) サラサレンゲ

サラサモクレンとも呼ばれ、4月上旬から中旬かけて花を咲かせます。モクレンとハクモクレンとの交雑品種のため、両者の中間の形質を持ち、花の色もほぼ白から紫まで変化に富んでいます。花形や樹形などにも幅広い変異があり、多くの品種が作られています。

2 管理

日当たりのよい風通しのよい肥沃な土地を好み、乾燥を嫌います。ハクモクレンやサラサレンゲは広い空間であれば剪定などの必要は原則としてありませんが、狭い空間では4~5年に一度太い枝を強く切りつめます。花芽の分化は6月下旬~7月上旬です。花芽は枝の先端にできまので、7月中旬以降に剪定を行うと、花芽を剪定することになり、翌年の花が咲かないこととなります。注意してください。

なお、図1~3の写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



図1 ハクモクレン（左下：花の拡大写真）



図2 モクレン（左下：花の拡大写真）



図3 サラサレンゲ（左下：花の拡大写真）